

中学国語科における「引用」の授業

～ 豊かな言葉「光と風からもらった贈り物」～

山形県米沢市立第二中学校 金 隆子

<実践の概要>

筆者の考えを効果的に表現するために、宮澤賢治の詩「高原」を引用していることを理解させる。また、引用の目的や方法を学び、実際に書く活動を取り入れることで著作物に対する意識を高めることをねらいとする。

1、実践の背景

子ども達を取り巻く社会の変容から、教科指導の中でも情報社会の特徴を生かした適切な活動を行うための知識や態度を育てることが求められている。

しかし、国語科では、指導すべき「引用」についても今まで触れることなく過ごしてしまった現状がある。(B「書くこと」(1)書くこと的能力を育成するため、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。)

著作権を侵害せず上手に著作物を活用するために、許諾や引用など著作権上のルールを守って活用させること、周りにあふれている著作物を認識させ、著作権の基本を身につけさせること等、国語科の指導として課されていることを明らかにして、学習活動の中で継続的に指導していかなければならない。

中学生も、インターネットからのダウンロード、CDや写メールを交換し合ったりと様々な著作物を無意識に活用している実態がある。著作権が子ども達自身にもかかわることや、互いの著作物に敬意をはらって活用していくことの大切さを、教科の指導から気づかせたいと考えた。

著作権について学習することは、子ども達自身の的確な判断力を身につけさせることにもつながる。普段の教科の学習が、世の中で役立つ知識を得られるものであることを伝えたい。

2、実践の意図

高橋世織の「光と風からもらった贈り物」は、宮澤賢治の「高原」という詩を引用することで、詩の言葉の豊かさに触れ、賢治の世界へと導き、さらに人間と自然が共生する世界へと視野を広げさせる文章である。五行の詩にこめられた思いに寄り添いながら、筆者の詩の読解を示す手法は引用の効果を理解する上でとても参考になる。

この題材を核に、引用という視点から教科書を見ると、指導計画に示したように前後の単元も引用の教材として生きてくる。

引用の方法を指導する前に、今の自分を励ます二字熟語を作らせ人と人をつなぐツールとしての言葉の大切さ、奥深さについて考えさせる。次に、教科書の引用パターンに沿って、インターネットで調べた名句・名言をもとにしたスピーチ原稿を書かせておき、本題材に入って引用していたことに気づかせる。

ゴールは、書籍やウェブページからの正しい引用の仕方と表記で、論理の展開を工夫した説明文を書く活動を取り入れ、実践的な学習につなげていく。

まとめとして宮地裕の「胸の底の人と言葉たち」を読み、高村光太郎の「道程」の引用の意図を理解し、人や言葉との出会いについて考え、宮澤賢治の弟が登場する文章の読解から、もう一度「高原」の引用を振り返りたい。

3、活動の実際

(1) 学習目標

- ・ 詩の言葉の豊かさにふれ、自然や言葉に対する見方を広げる。
- ・ 国語科のねらいに沿って「引用」について学び、著作物に対する意識を高める。
- ・ 詩「高原」の内容を理解し、自分の体験と照らし合わせながらその感動を味わう。
- ・ 詩「高原」の内容をふまえて、さまざまな読み方によって朗読の工夫をする。
- ・ 「光と風からもらった贈り物」という文章の中での引用の効果について考える。

(2) 指導計画 (本題材3時間・関連題材12時間)

題材「今に生きる言葉～故事成語～」から、今の自分を励ます言葉二字熟語をつくり、言葉の奥深さについて考える。	1時間
名言・名句をインターネットで調べ、気に入った名言・名句を一つ選び「光と風からもらった贈り物」の文章パターンに沿って、引用を用いた1分スピーチ原稿を書く。	1時間
引用の目的・方法を知る。 詩「高原」の内容・構成を理解し、読み方を工夫して朗読する。 教材文を読み、詩の引用の形に気づきその効果について考える。	1時間 (展開例)
全体の構成を理解し、言葉を追究する詩人の生き方にふれる。 「鹿踊りのはじまり」を読み、それぞれの鹿の行動や会話の特徴を理解する。 宮澤賢治の他作品に触れる。	2時間
説明文「クジラたちの声」を読み、説明文の基本的な構成、導入・本文・まとめのかたちを確認する。	1時間
題材「わかりやすく説明しよう～情報を選ぶ～」で、引用を意識して必要な情報を選び整理して伝える方法を学ぶ。 ・ 3年生のスピーチを聞く異学年交流学习の場を設定し、調べるテーマのヒントを得る。 ・ マッピングでイメージを広げ、興味のあるテーマを決定する。 ・ 書籍からの引用、ウェブページからの引用の仕方を理解し、正しく表記できるようにする ・ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある説明文を書く。情報収集のプロセスを実感し、目的や相手を意識して表現する。 ・ 互いの作品を評価し合う。	6時間
題材「胸の底の人と言葉たち」を読み、高村光太郎の「道程」の引用の意図を理解し、人や言葉との出会いについて考える。 宮澤賢治の弟も登場する文章から、もう一度「高原」の引用を振り返る。	3時間

使用教材

「教科書 国語1」(光村図書出版株式会社)

「教科書 現代の国語3」(株式会社三省堂)

「注文の多い料理店」(ポプラポケット文庫)

「みんなの名言集」(<http://quote.qooin.com/>)

生徒が引用した 心に響く名句・名言 例

- ・ 川上哲治「無駄になる努力はない。」
- ・ トーマスエジソン「失敗？これはうまくいかないことを確認した成功だよ」
- ・ ウォルト・ディズニー「それを夢見ることができるならばあなたはそれを実現できる」
- ・ 宇津木妙子「人生に夢があるのではなく夢が人生をつくるのです」
- ・ 松岡修造「本気になれば自分が変わる。本気になれば全てが変わる。」
- ・ 荒川静香「今この瞬間を大切に生きる。それが自分への挑戦であり、明日への道へと続いていく」



(3) 授業の展開

授業の目標

- ・引用の目的、方法を知る。
- ・詩「高原」の内容、構成を理解し、読み方を工夫して朗読する。
- ・教材文を読み、詩の引用の形に気づきその効果について考える。

授業の流れ

時間	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	1、1分スピーチ	心に響いた名句・名言についてスピーチさせる ・教材文の構成に沿った文章を書かせておく。 ・2～3名指名する。	ワークシート プロジェクタ 実物投影機
展開 35分	2、引用に気づく	スピーチ原稿を拡大提示する。 ・今の自分の心の中を表現するために、名句・名言を引用していたことに気づかせる。 ・引用の目的と方法を指導する。 【引用の目的】 関連する事実や意見を示す。 説明や解説。 自分の意見や見方の補強。 【引用の方法】 短い引用は「 」に入れる。 長い引用は改行して行頭を二字分下げる。 前後は一行ずつ開ける。	プロジェクタ 実物投影機 提示カード
	3、他の事例を調べる 引用例をつかむ	理科、技術、道徳の引用例を紹介し、社会の教科書、資料で引用箇所を見つけさせる。 ・意図を持った様々な引用の形があることをつかませる。 ・この学習が、次の、引用を用いて情報を選び整理して伝える単元につながることを伝える。	教科書 プロジェクタ 実物投影機
	4、「高原」を読む	1行ずつ拡大提示し読ませる。 「海だべがど おら おもたれば」 ・どこの方言か、一文空きの効果等を問いかける。 ・詩だけでは理解が難しいことに気づかせる。	プロジェクタ 実物投影機 ワークシート
	5、教科書を開く 引用意図を理解する 教科書を読む	詩の作者と教材文の作者、題名を確認する。 引用の方法(工夫)と引用の意図をつかませる。 ・筆者の考えを効果的に表現するために、宮澤賢治の詩を引用していることを理解させる。	教科書
	6、「高原」を視写し 読み深める	丁寧な視写し、音読符号をつけさせる。 ・引用の意図を生かして「高原」を音読させる。	ワークシート
まとめ 10分	7、まとめ	次の時間は、構成に従って内容をまとめ、引用「鹿踊りの はじまり」を読むことを知らせる。 ・鹿おどりの映像を視聴させる。 ・自己評価カード記入。 感想発表。 ・問題集への引用取り引き例を紹介する。	プロジェクタ PC ワークシート

4、成果と課題

(1) 体験を通じた学び

今の自分の心の中を表現するために「名句・名言」を引用したことに後で気づかせることをねらい、教科書と同じ引用の形式を用いてスピーチ原稿を書かせておいた。(写真1)

教科書を開き、詩の引用を形からつかませ、その効果について文章を読解しながら理解させたことで、引用の目的・方法を理解させることができた。

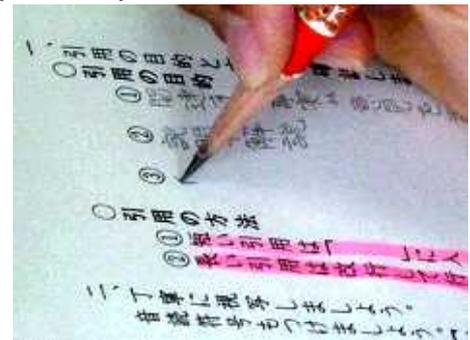
(写真2) 実際に書いてみる体験を取り入れた効果は大きい。



(写真1) 引用原稿

(2) 他教科に生かす

他事例の紹介は、社会・理科・道徳・進路・技術等其他教科の教科書や資料を活用した。言葉やグラフや図と、身近なところに引用がたくさん用いられていることを知り。そして、引用することによって書き手の(その事実の)何が強まっているのか、また引用しなかったら、説得力はどのくらい落ちて感じるかについて考えることができた。教科書や資料集の見方も授業前と変わってきている。(写真3)



(写真2) ワークシート

(3) 読み深める

教材文中の「高原」の引用の意図は詩の一言一句を丹念にたどり、読み取りうることを最大限に引き出し、言葉の豊かさを体験させることにもある。科学的な教養を背景に東北の自然と対話を続けた賢治が、大自然に対する驚きと一体感を方言を用いて表現したこの五行の詩にこめた思いに迫らせるため、丁寧に視写し、音読符号をつけ読み味わわせることをねらった。引用の意図を生かした読み取りについて考え、作品の主題に迫ることができた。



(写真3) 他の教科書で引用を探す

(4) 生徒の感想から

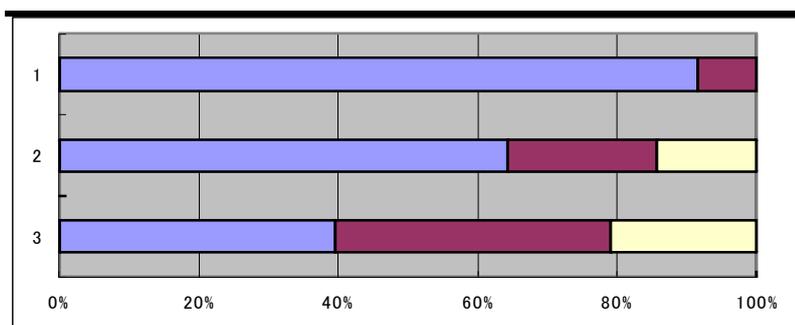
学習の振り返りとして、以下の項目についてアンケートをとった。

- 1、引用の目的や方法について理解できましたか。
- 2、詩「高原」の内容を理解し、読み方を工夫できましたか。
- 3、「光と風からもらった贈り物」を読み、詩の引用の形に気づき、その効果を考えることができましたか。
- 4、記述による授業への評価

1～3については、Aよくできた、Bできた、Cあまりできなかった Dできなかったの4件法を用いた。グラフ左からABC。

対象は22年度1年生94名。

(図1)縦軸は上から、項目1、引用の目的・方法の理解、項目2、内容理解・読みの工夫、項目3、詩の引用とその効果を、横軸は%を示した。



【図1】授業後の自己評価

質問項目2の詩の内容理解や読み、質問項目3の詩の引用とその効果についての結果から、引用そのものは理解できたがそれを使った読解や活用に自信がもてない生徒がいることがわかる。継続した指導が必要である。

○記述による評価

- ・実際に引用してみることで、自分の考えを見つめ直したり深めたり広げたりできることがわかった。最初難しいと思ったけど、自分の思いだけ書く作文との違いが理解できた。調べ学習をして自分で説明文を書くのが楽しみだ。
- ・引用という言葉はきたことがあったが意味や目的を考えたことがなかった。でも実は、教科書など身近にあるものに使われていることがわかった。書いた人や作品を大事にする上で正しく使いたい。
- ・引用の意味は最初はむずかしいと思ったけれど、名言や詩の表現や気持ちもふくまれているとても意味深いものなんだなということがわかりました。宮澤賢治と「高原」と言う詩がとても好きになりました。
- ・いろんな教科書で引用探しをした時、私は道德の教科書に書いてあった「自分一人で石を持ち上げる気がなかったら、二人ががかりでも持ち上がらぬ（ゲーテ）」等の有名な人の言葉の引用に興味を持ちました。道德で勉強する話と、その言葉がなぜつながっているのかなと思ったからです。私も自分が心に響くことばをネットで探して引用したからかなあ。
- ・社会や理科の教科書や資料を見るのがなんだか楽しくなりました。何のためにこの表がここにあるのかとか、この図で何を伝えたいのかななどと考えると、今までさらっと読んでいた教科書の文章が大事なものに思えてきました。
- ・自分の思いと他の人の言葉の共通点を探していると、引用を使った僕の作文がその人の言葉を一緒になって表れているような不思議な気持ちになりました。宮澤賢治と作者の高橋さんもそうなのかなあと思いました。

(5) 今後に向けて

「引用」の指導は国語科にかせられているにもかかわらず、これまでほとんど行ってこなかったことをまず反省した。また、今回の実践を通して、教科書を「著作権」「引用」という視点で見ること新鮮な見方ができたし、けして難しいことではなく誰にでも指導できることだと実感できた。これらは、日常生活に結びつくものが多いためか、子供達が短時間に内容をよく理解しこれからの生かしていこうという姿勢を見せたことにも起因しているのではないかとも思う。と考えると、今だから必要な指導、避けてはいけない指導なのではないだろうか。

自分の考えを補強するために、他人の著作物を使用する引用の方法は、大切な言語能力であり、どのような場でも生かされる力である。どの教科、どのような活動の場にもいかされる国語であることを改めて考え、今後の実践につなげていきたい。

国語だけでなく、教科間の連携をとりながら、学校として各教科のねらいをふまえた学校としての指導計画が展開できることを目指して研修を積みたい。

授業前は、著作権や引用という言葉は聞いたことはあるがよく分からないと答えた生徒がほとんどだったが、授業後の調査結果をみると、質問項目1の引用の目的や方法については全員理解していることが分かった。90%以上がよく理解できたと答えている。